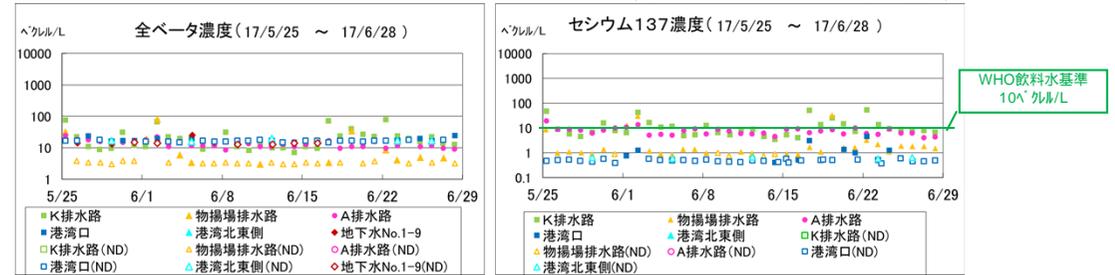


- 前回(5月25日)以降のデータ公開数は約10,000件  
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約10,000件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定  
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペフロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定  
降雨の影響により、1～4号機取水路開渠内及び港湾内海水の放射性物質濃度に一時的な上昇が見られましたが、その他の期間は海側遮水壁閉合に伴い低下した濃度を維持しており、港湾内北側の海水中セシウム137濃度は、多くの日で1 Bq/Lを下回る低濃度となっています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。

## A 水(海水、排水路、地下水等)

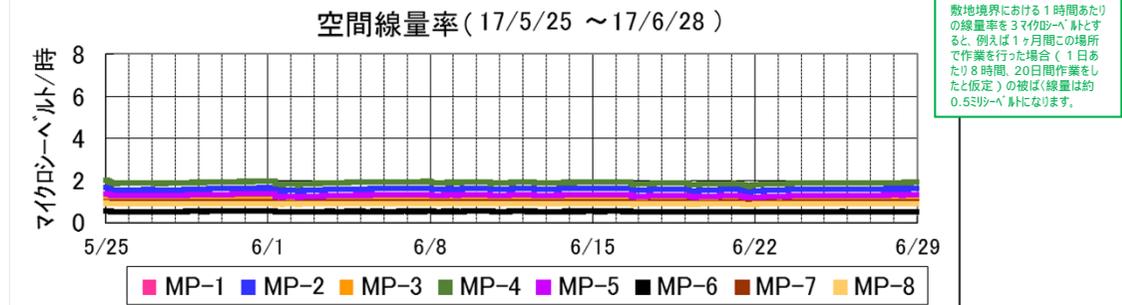
- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。  
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

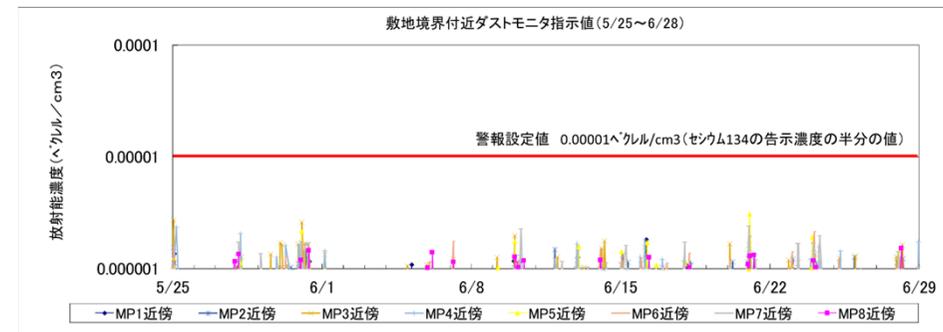
## B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。

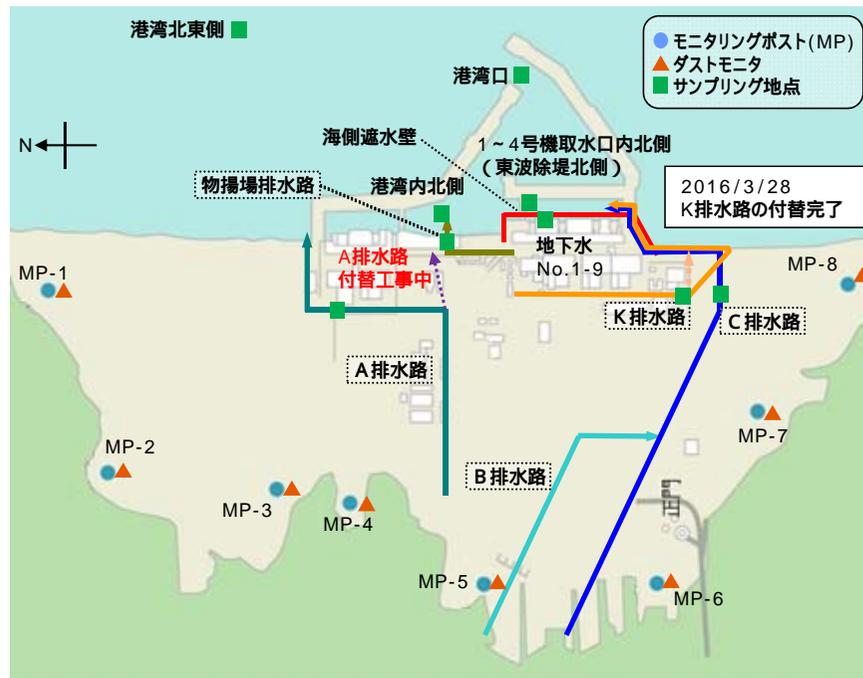
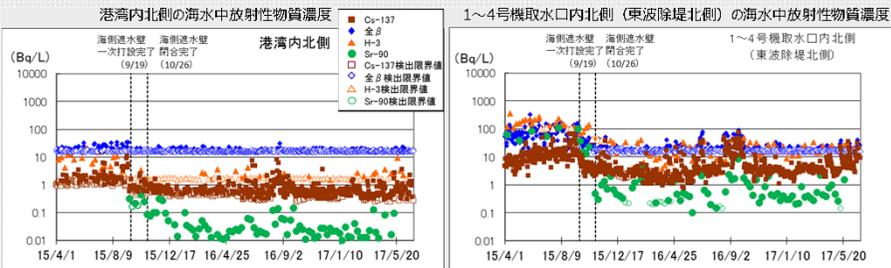


## C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。



告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

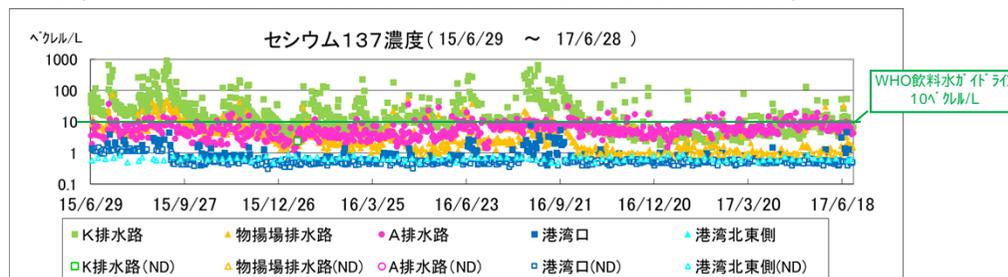
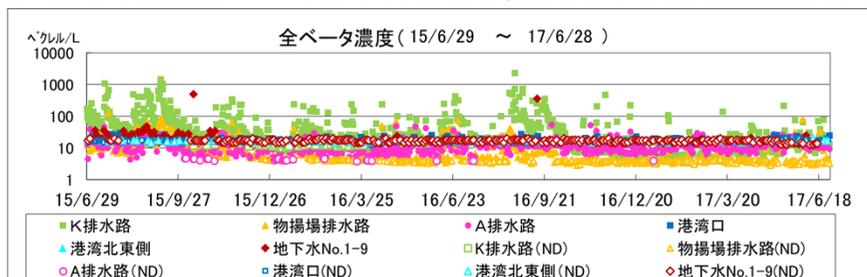


データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

# 放射線データの概要 過去の状況

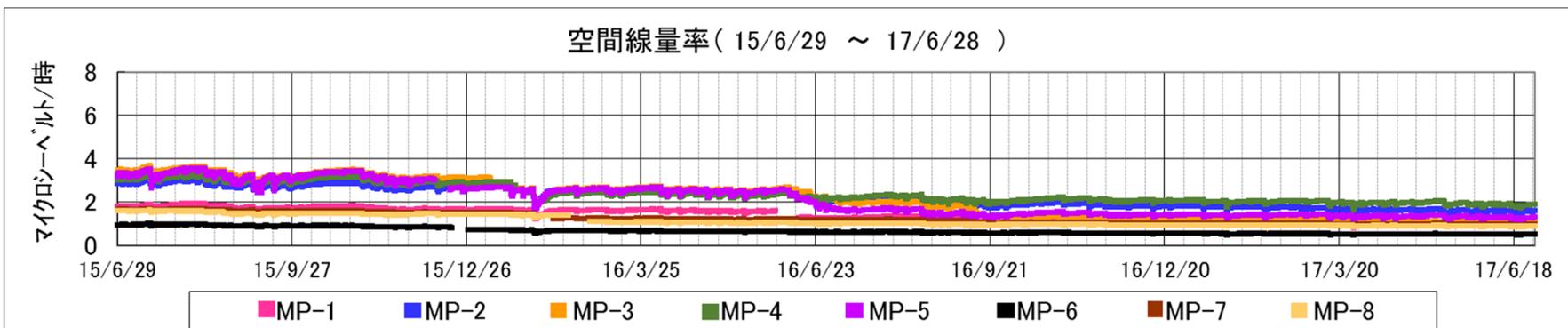
## A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



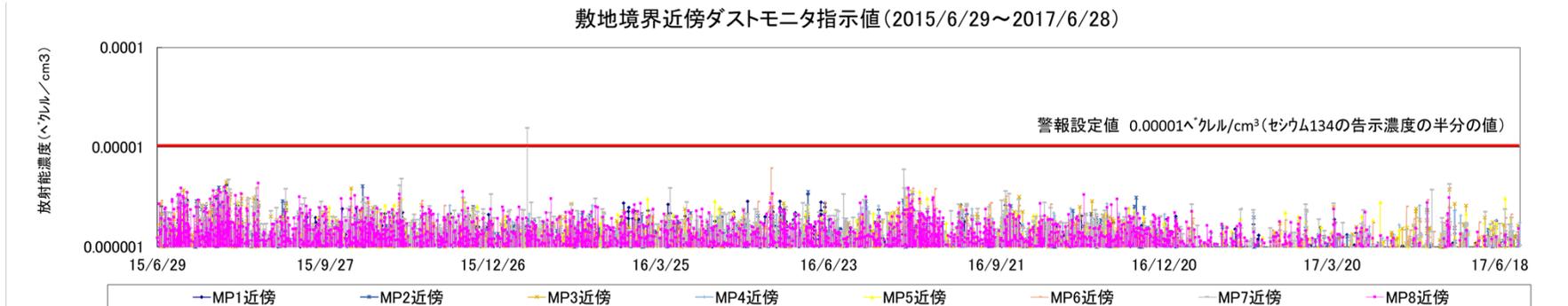
## B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



## C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



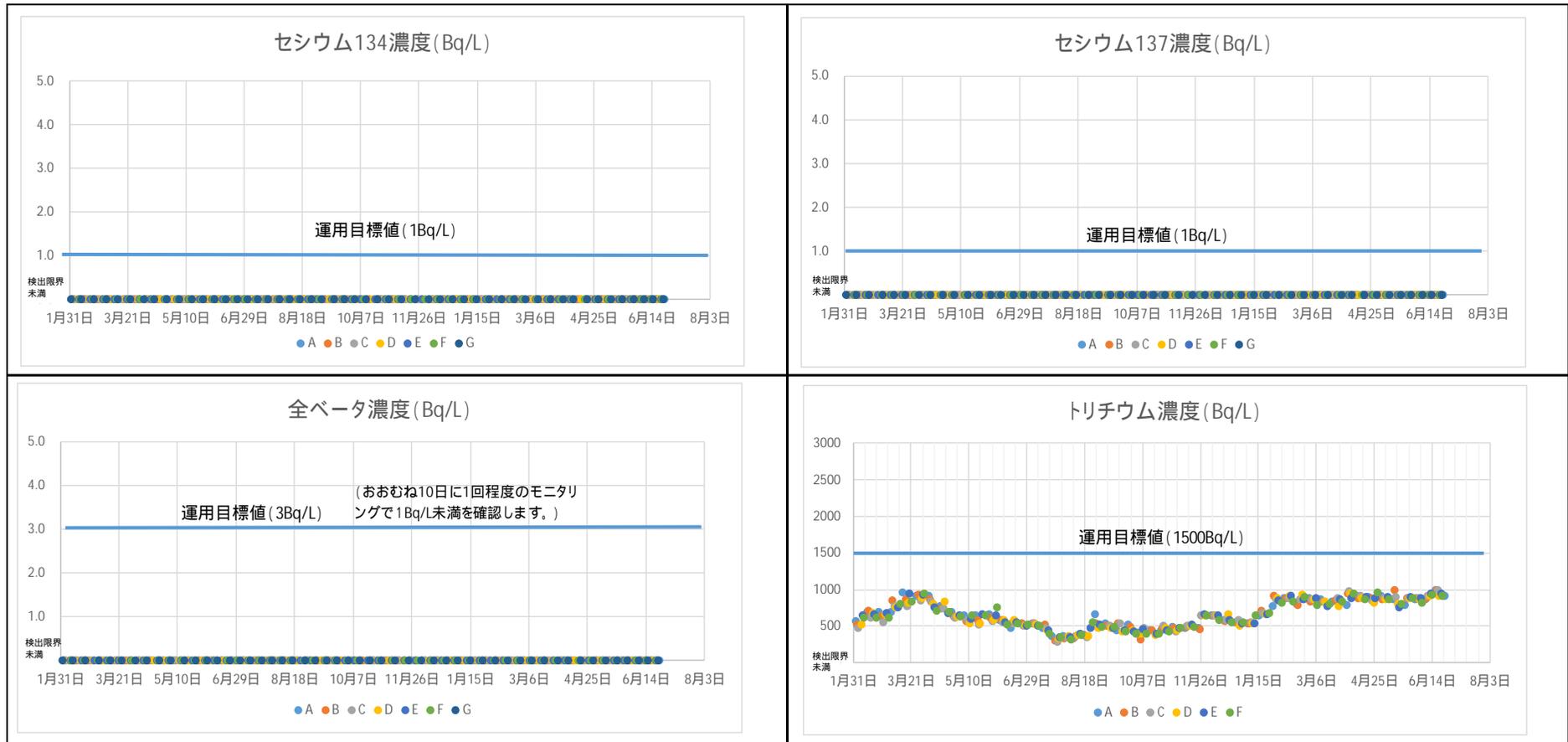
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

# サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

## 分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年6月28日までに合計429回、354,729m<sup>3</sup>を排水しました。

## 一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



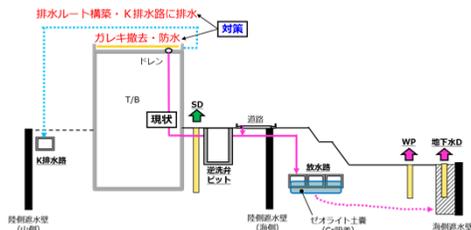
サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

# 4号機タービン建屋屋根雨水対策工事における被ばく低減対策について

- 4m盤の地下水汲み上げ量の低減を目的に、1～4号機タービン建屋屋根の雨水対策を進めている。
- 4号機については、タービン建屋屋根面のガレキを撤去したうえで、コーティング（本設防水）を施し、K排水路までの新設排水ルートを構築する工事が7月中旬に完了予定。※
- 工事において、作業員の被ばく低減の観点から実施した代表的な対策は以下のとおり。
  - 【線源】 遮へい体を設置  
⇒高線量である3号機からの線量寄与を抑制するために、移動式足場に鉛マットを固定した遮へい体を設置することで作業場所の線量低減を図り、作業員の被ばくを低減
  - 【距離】 低線量エリアで遮へい体を地組  
⇒タービン建屋屋上（平均0.7mSv/h）よりも低線量のエリア（平均0.01mSv/h）で遮へい体を地組することで高線量エリアでの作業時間を短縮し、作業員の被ばくを低減。
  - 【時間】 簡易防水材料の採用による屋根面の汚染除去範囲の見直し  
⇒屋根表面に簡易な膜を作り、雨水が汚染源に触れにくくする工法を採用することで、ルーフブロック・敷砂を取り除かずに作業でき、工事期間の短縮を図り、作業員の被ばくを低減。
- ④ スプレー塗装装置を用いた簡易防水材料の吹付散布  
⇒簡易防水材料の施工方法を見直すことで作業効率を改善し、作業員の被ばくを低減
- 以上の対策等を実施した結果、本対策における総被ばく線量は約0.4人・Svで完了する見込み。  
対策実施前の計画線量約7.0人・Svに対して、約95%程度低減して作業を完了することができる見込み。

※1～2号機については、ガレキを撤去したうえで、コーティング（簡易防水）を施し、雨水配管切替により陸側遮水壁内に雨水を浸透させサブドレンで汲み上げて処理する暫定対策を進めている。2号機は対策完了し、1号機は6月末対策完了予定。3号機については、高線量で有人による作業が困難であるため工法を検討していく。

## ■ 雨水対策の基本方針（イメージ）



## ■ 雨水対策完了後の状況

対策前



対策後



線源

遮へい体設置状況（全体外観）



距離

遮へい体地組作業状況

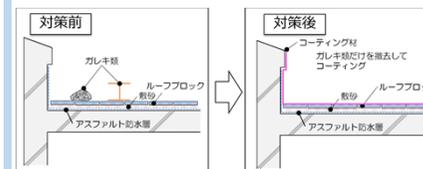


遮へい体吊上作業状況



時間

屋根面の汚染除去範囲説明図



スプレーによる簡易防水材料散布状況

